

取材のご案内

京丹後市×トロント大学・スタンフォード大学研究者と連携
次世代のリーダーを育成する
「Kyotango Sea Labo」ワークショップ開催！

令和5年7月28日

京丹後市教育委員会

東京からもっとも遠いまちの一つである本市は、大学をはじめとする高等教育機関が存在しないなど教育における地理的なハンディキャップを抱えています。

一方で、本市はこの課題解決として、教育 DX（デジタル・トランスフォーメーション）を活用し、昨年は市内全中学2年生を対象に導入した英語力向上アプリ「ELSA Speak」を今年度は市内全中学1～3年生の学校等で使用するタブレットに導入したり、大学と連携したプログラミング学習を導入したりするなど、地理的ハンディキャップを超えた質の高い教育機会の提供に引き続き取り組んでいるところです。

更なる教育機会の充実を図るとともに、「世界を意識し、グローバル社会で活躍できる、イノベティブなリーダー人材を京丹後に育成する」ことを目的に、昨年度に引き続き2年目となる「どこまでも広がる 未来のまちを創造する Kyotango Sea Labo」（以下「本プロジェクト」という。）を実施します。本プロジェクトは昨年プロジェクト終了後より約1年をかけ改良を重ねており、参加する子どもたちが将来グローバル社会で活躍し、本市発展の担い手となっていくことを期待します。

8月10日（木）～12日（土）には、STEAM人材育成を牽引するトロント大学の木島里江准教授、スタンフォード大学のヤング吉原麻里子講師等現役研究者ら並びに同人が共同設立した一般社団法人スカイラボ（※1）のチームを本市にお招きし、市内の中学3年生・高校2年生の計33名とそれをサポートする国内外の大学生9名、地元企業関係者9名とともに、シリコンバレーで注目される発想のメソッド「デザイン思考」を学び、クリエイティブな考え方を身につけて本市の未来を切りひらくイノベーターを育成する探求型ワークショップを英語で開催します。本市が両大学の関係者をお招きし、取り組みをするのは今年で2年目になります。

ワークショップ期間中の見どころは、8月10日（木）13時10分～14時10分に
取り組む、参加生徒が地元企業関係者にインタビューし、その人柄にせまりながら人間中心の
発想を学ぶ活動となっています。

参加者等へのインタビューについては、ワークショップ期間中に「【概要】3. 取材に係るお願い」のとおり設定しており、参加生徒、大学生、木島里江准教授・ヤング吉原麻里子講師ら研究者へインタビューいただくことが可能です。また、8月10日（木）については、松本明彦京丹後市教育長も同席いたします。

【概要】

1. 日時 令和5年8月8日（火） 9：00～16：30（Day1）
9日（水） 9：00～15：30（Day2）
10日（木） 9：00～16：30（Day3）
11日（金・祝） 9：00～16：30（Day4）
12日（土） 9：00～16：30（Day5）
2. 会場 丹後・知恵のものづくりパーク内 B棟2階大研修室・交流スペース
（京都府京丹後市峰山町荒山225番地）

3. 取材に係るお願い

- ・ワークショップ期間中の取材については下記のとおり設定しています。プログラムの進行に影響のないよう、取材にご協力をお願いします。写真・動画の撮影は随時可能ですが、参加生徒、大学生、木島里江准教授・ヤング吉原麻里子講師ら研究者へのインタビュー時間は別途設けておりますので、ワークショップ中は講師及び参加者へのインタビューは行わないようご協力ください。

<入場の制限について>

○入場不可時間：8月9日（水）9：00から12：00

○入場可能時間：上記以外のすべての日程

<インタビューについて>

※プログラムの進行状況により、開始時間が遅れる場合がありますのでご了承ください。

○対象：木島里江准教授・ヤング吉原麻里子講師ら研究者

8月10日（木）13：20～14：05

8月12日（土）9：40～10：30、11：10～11：50、

12：50～13：25、15：40～16：15

※8月10日（木）松本明彦京丹後市教育長同席

○対象：参加生徒及び大学生

8月8日（火）～8月12日（土）12：10～12：30（20分・お昼休憩中）

- ・会場の広さに限りがありますので、見学者が多い場合には入場を制限する場合があります。

4. その他 概要は添付資料のとおり

備考

※1 一般社団法人スカイラボ

- ・スタンフォード大学で博士号を取得し、シリコンバレーで子育てをしていた日本出身の女性たちが、教育や人文・社会科学といった自分たちの専門性を使って、STEM領域の男女格差を是正するために何かできないだろうかと、スカイラボを2016年に設立。
- ・スカイラボが設立以来手掛けてきた“デザイン思考を英語で学び人間中心のアプローチでSDGsの社会課題に取り組む女子高生対象のSTEAMワークショップ”が公益財団法人日産財団が主催する2022年度の第5回リカジョ育成賞の申請者26件より準グランプリを受賞。

[問い合わせ先]

京丹後市教育委員会事務局学校教育課

担当：松本・戸田

TEL 0772-69-0620/FAX 0772-68-9061

Mail gakkokyoiku@city.kyotango.lg.jp



Kyotango Sea Labo プログラム'23 大まかなカリキュラム

Day 1 サステナビリティとは 8月8日(火)	Day 2 STEMとは 8月9日(水)	Day 3 エンパシーとは 8月10日(木)	Day 4 デザイン思考サイクルとは 8月11日(金・祝)	Day 5 プレゼンテーション 8月12日(土)	Day 6 振り返り 9月2日(土)
9:00 開始	※8月9日(水)9:00-12:00 取材等の対応は不可	9:00 開始	9:00 開始	9:00開始	振り返りインタ ビュー (オンライン)
9:00- Kyotango Sea Labo開会式 Team Building activities	9:00- Day 2スケジュール確認	9:50- デザイン思考における共感とは (Empathy)	10:50- デザイン思考 ニーズの抽出 (Capture Needs)	効果的なプレゼンとは	
10:50- サステナビリティとは	9:10- 京丹後市のイノベーターズ (デザインシンキングパートナー としてご協力いただく地元企業 の方の講話・企業訪問)	10:15- インタビューの場面での empathyとは	11:10- デザイン思考 発想 (Brainstorm Solutions)	プレゼン作成 プレゼンしてみよう!	
11:20- 京丹後市におけるSDGs					
11:50-12:40 昼食とチームラポール形成の時間	12:00-13:00 昼食とチームラポール形成の時間	12:00-12:40 昼食とチームラポール形成の時間	12:00-13:00 昼食とチームラポール形成の時間	12:10-13:00 昼食とチームラポール形成の時間	
13:30- 講話 株式会社subspire 代表取締役 Riley Churchil	13:00- デザインシンキングパートナ 紹介	13:10-14:10 デザインシンキングパートナ へのインタビュー	13:30-14:20 デザイン思考 デザインシンキングパートナ によるフィードバック (Get Feedback)	13:40- 最終プレゼン	
14:20- 京丹後市の現状	13:45- デザインシンキングコーチ(大学 生・大学院生)による講話 “What I do as a STEM student”	15:20-16:40 講話 京都市立芸術大学 客員教授 富田 直秀 様 (京都大学名誉教授)	15:10- デザイン思考 可視化 (prototype)	15:15- 修了式	
16:05- I like, I wish, I wonder	15:15- I like, I wish, I wonder	15:15- I like, I wish, I wonder	16:20- I like, I wish, I wonder	16:30終了	
16:30終了	15:30終了	16:30終了	16:30終了		



- 教育DXの進展を契機として、時間・空間の不利を克服した特色ある教育モデルを東京からもっとも遠いまちのひとつである京丹後市から構築します。
- 京丹後市の有する素地を生かした教育により、地域の有する可能性を最大限に伸ばすとともに、そうした教育を核としたまちづくりを進め、地方創生の実現を目指します。

京丹後市の現況

- ✓ 京都府最北端の人口5万人のまち
- ✓ 東京から最も遠いまちの一つ(約5時間)
- ✓ 高等教育機関が存在しないまち



地理的ハンディキャップを超えた質の高い教育機会を提供することが重要

産業×人材育成



- ✓ 200社以上の機械金属業関連会社が集積
- ✓ あらゆるニーズに対応するハイテク総合産地
- ✓ 日本の文化・芸術の核である京都の中であって、300年の歴史を有する丹後ちりめんの最大の産地
- ✓ 大起業家の松本重太郎氏の生まれ故郷
- ✓ 鉄道や紡織産業等のSTEAM分野にも関連するキ・ンダストリーの勃興

最先端と伝統が根付く産業構造に対応した人材の育成が重要

教育機会



シコパレ発の発音矯正アプリを市内全中学1~3年生のタブレットに導入



デジタルを活用し、京丹後市を題材とした起業アイデアに係る全国大会の実施



地域に根差した特色あるカリキュラムの「丹後学」を小3~中3まで一貫して実施

テクノロジーも活用して多様な教育機会を有機的に結びつけることが重要



- 海外大学や地元企業、バイリンガル大学生等と連携し、市内の中高生を対象としたデザイン思考を核としたプログラムを英語により展開し、3年間かけて京丹後市版のSTEAM人材育成のためのプログラム開発を行います。
- プログラムを通じて、京丹後市の良さを学び、コミュニティの課題を考え、STEAM人材として人間中心のグローバルな発想を身に付けて、京丹後市の未来をデザインする次世代リーダーを育てます。

ワークショップ(全6日間)



SDGsを切り口として、STEAM関連の地元企業から仕事の魅力や抱える課題等を中高生に共有



各グループで企業=デザイン思考パートナー(以下「DTP」という。)を選定し、インタビューを通じてDTPが抱える個人レベルのニーズや課題を深掘り



課題解決に資するアイデア出しを行い、DTPからのフィードバックをもらいながらプロトタイプ化



試行錯誤を繰り返しながら、最終的なプロトタイプに対して英語でプレゼンテーションを実施



<デザイン思考>

- 共感：DTPの言動を観察し、ニーズや問題を探る
- 問題定義：DTP自身も気づいていない本質的な課題を抽出し、定義してみる
- アイデア創出：課題を解決するためのアイデアを考える
- プロトタイプ：アイデアを形にする
- テスト：プロトタイプをDTPに試して改良の糸口をもらう

※バイリンガルの大学生がサポートに入りながら、英語を基本として展開

リサーチ



ワークショップの前後でアンケート等を実施



トロント大学とスタンフォード大学の研究者を中心に分析を実施(学力調査とのクロス分析等含む)

- 創造性への自信の向上
- 自己肯定感の向上
- キャリアに対する意識変革
- STEAM分野の学力向上

プログラム開発



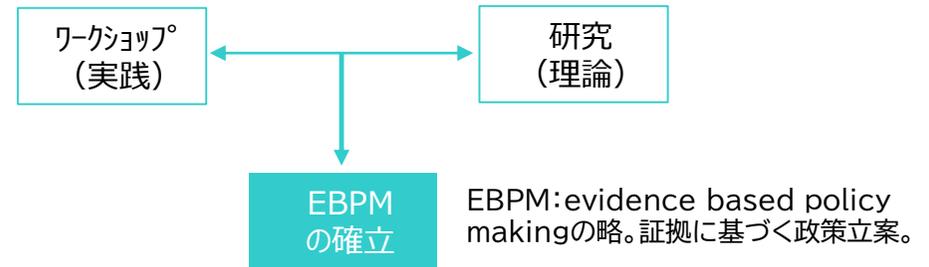
左記サイクルを3年間まわすことにより、プログラムを確立



教育課程内におけるSTEAM教育の実践



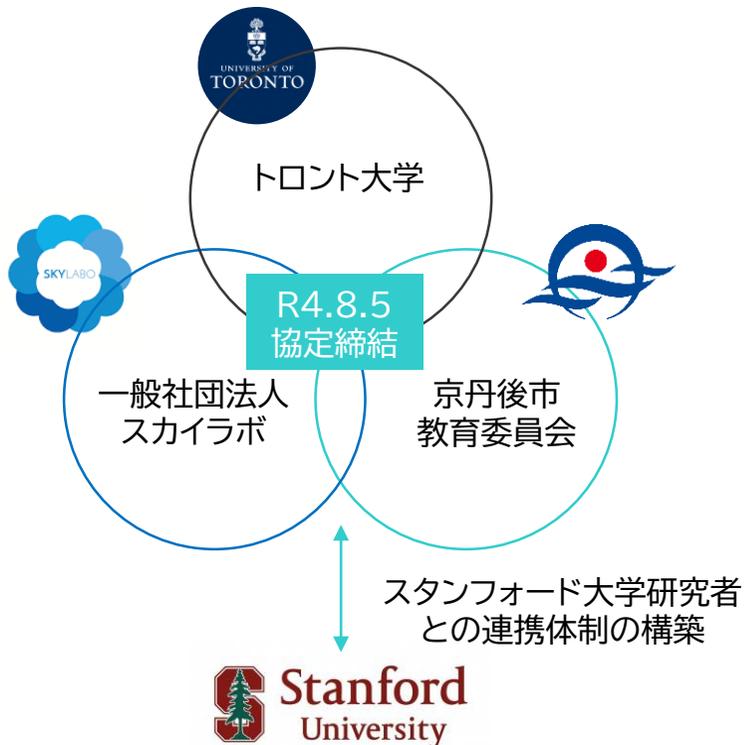
理論と実践を往還することで、EBPMによる教育施策を展開



- 海外大学等と協定を締結し、持続的に新たな学びを実現していくための体制を構築しています。
- 自ら手を挙げた市内の中高生33名(中学生17名、高校生16名)の学びを多様な主体と世代でサポートします。

プログラムの運営体制

- ✓ STEAM教育の専門性を有する組織と研究力に長けた大学との連携体制を構築
- ✓ プログラムの運用から開発までを一貫して一体的に実施



プログラムの支援体制(地元企業・大学生)

- ✓ 9名のバリエーションの大学生を選抜(スタンフォード大学、京都工芸繊維大学、慶應義塾大学、関西外国語大学、立命館大学)
- ✓ ボランティアでデザイン・コーチとして中高生の学びをサポート



- ✓ 伝統的なものから最先端のものまで、9つの地元企業等がそれぞれの魅力を学びの素材として中高生に提供

<参画地元企業等>

- ・ ヒロセ工業株式会社(精密部品加工・金型)
- ・ 田勇機業株式会社(織物)
- ・ 株式会社U設計室(建築設計)
- ・ 小野甚味噌醤油醸造株式会社(味噌醤油醸造)
- ・ 有限会社芳賀製作所(家具)
- ・ 株式会社日進FULFIL(バイオマス)
- ・ 株式会社エーゲル(森林)
- ・ たてつなぎ(丹後ちりめんプロダクト)
- ・ 株式会社自然耕房あおき(自然農法による野菜づくり)



※一般社団法人スカイラボ:STEAM教育により、次世代のイノベーション人材を育成する非営利団体

